

旭川市中心市街地活性化基本計画の見直しに向けた市民アンケート集計結果（概要版）

1 調査概要

（1）調査の目的

中心市街地に対する市民意識や意見等について、市民等を対象にアンケート調査を実施し、旭川市中心市街地活性化基本計画（平成 29 年度～令和 9 年度）の見直し及び今後の賑わいづくりの参考として活用する。

（2）調査の種類

①18 歳以上の旭川市民 2,000 人を対象にした無作為抽出による調査（以下「無作為抽出」という。）、②調査票を SNS 等で配信するなどした無作為抽出以外による調査（以下、「無作為抽出以外」という。）、③児童・生徒を対象にした平和通買物公園の認知度調査を行った。

（3）調査の期間

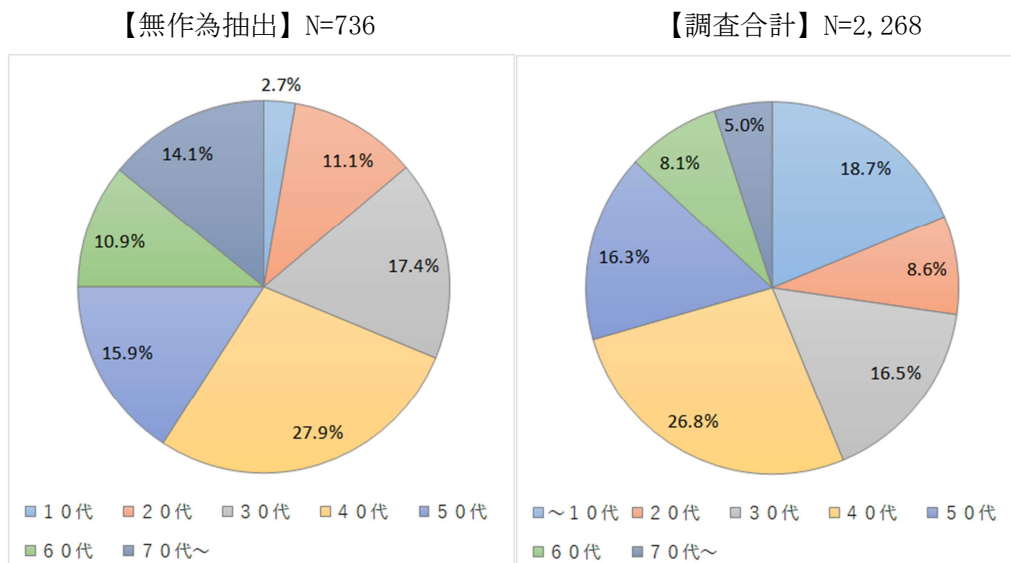
令和 4 年 8 月～9 月 16 日

（4）回収結果

- ① 無作為抽出 回収数 739 件（回収率 37.0%）
- ② 無作為抽出以外 回収数 1,533 件
- ③ 小中高用 回収数 1,021 件（回収率 83.8%）

（5）回答者の年齢

回答者の年齢構成は、（2）①と②を合わせた調査合計では、高校生に調査票を直接配付して回収したことから、10 代以下が 18.7%となっている。

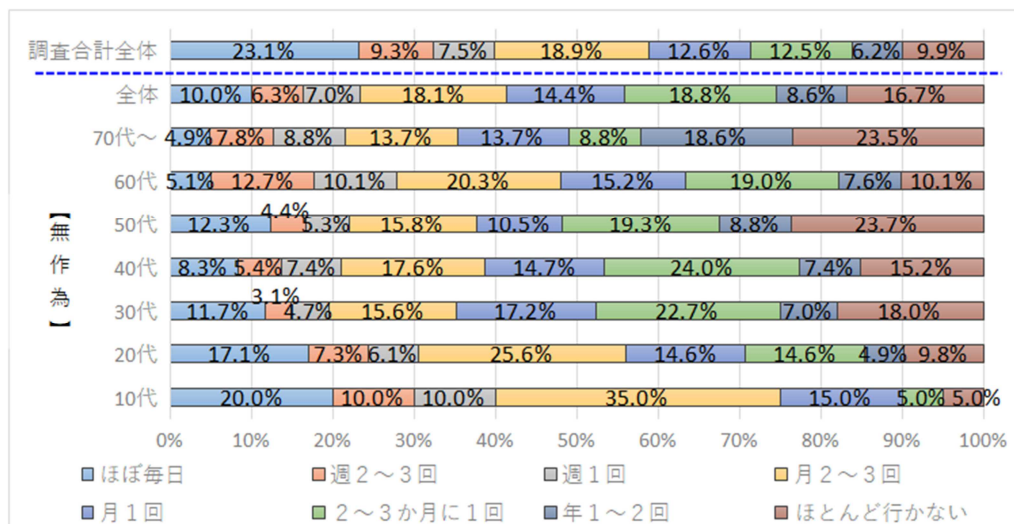


2 主な設問に対する回答結果¹

(1) まちなかへ行く頻度 (問2)

月1回以上まちなかへ行くと回答した割合は、合わせて55.8%となっており、年齢層別でみると10代が90.0%と最も高く、50代が48.3%と最も低くなっている。

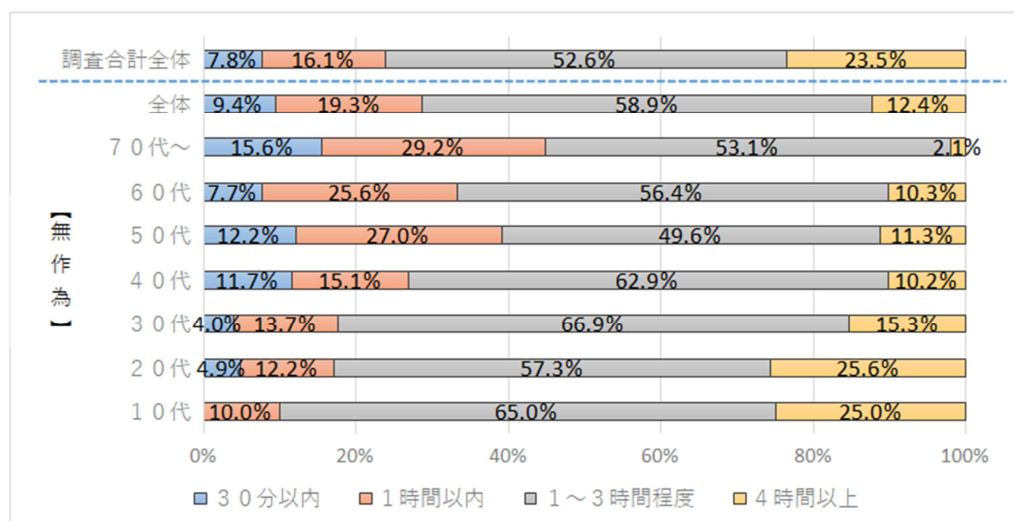
【無作為抽出】 N=729 (【調査合計】 N=2,255)



(2) まちなかへ行ったときの滞在時間 (問3)

1時間以上滞在すると回答した割合は、合わせて71.3%となっており、年齢層別でみると、10代が90.0%と最も高く、70代以上が55.2%と最も低くなっている。

【無作為抽出】 N=720 (【調査合計】 N=2,244)

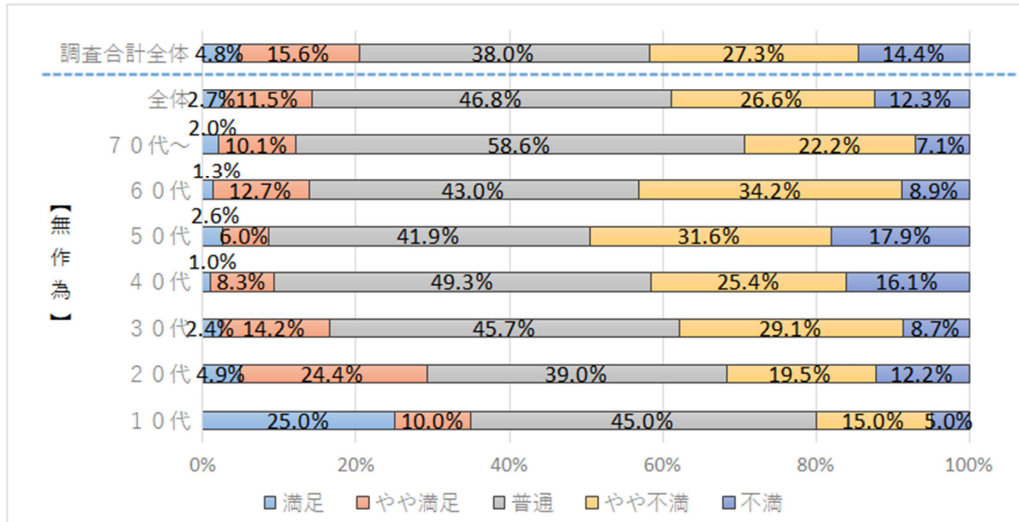


¹回答結果は、特に明示のない場合、無作為抽出の結果を記述している。また、設問の回答者数をNで示しているが、選択肢の中から複数回答ができる設問では回答数の合計とNは一致しない場合がある。

(3) まちなかに対する満足度と理由 (問7～問9)

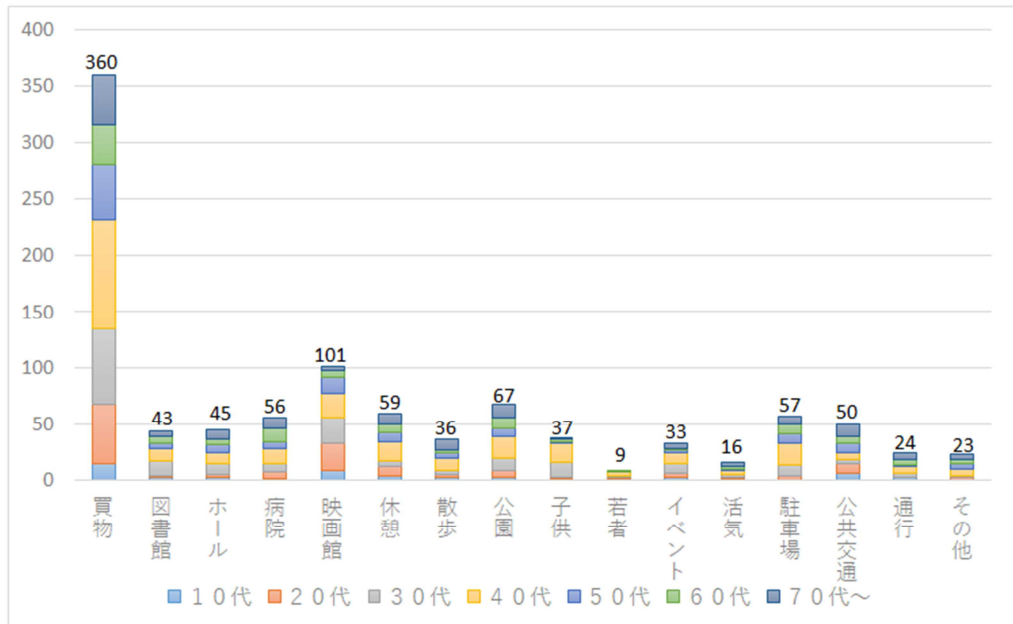
「普通」と回答した割合が46.8%と最も高くなっており、「満足」は2.7%、「やや満足」が11.5%で、合わせると14.2%となっている一方、「やや不満」が26.6%、「不満」が12.3%で、合わせると38.9%となっている。年齢層別では、「満足」と「やや満足」を合わせると10代が35.0%と最も高く、「やや不満」と「不満」を合わせると50代が49.5%と最も高くなっている。

【無作為抽出】 N=729 (【調査合計】 N=2,258)



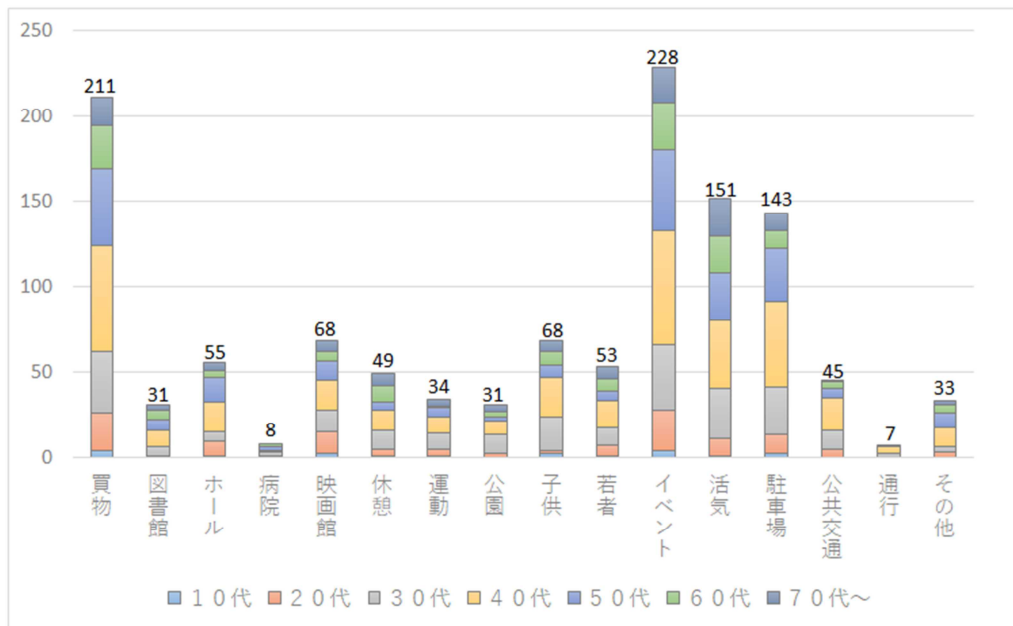
「満足」「やや満足」「普通」の理由として、「買物や飲食ができる店舗・施設があるから」が360件と最も高くなっている。

【無作為抽出】 N=435



「やや不満」「不満」の理由として、「魅力あるイベントが少ないから」が228件と最も高くなっている。

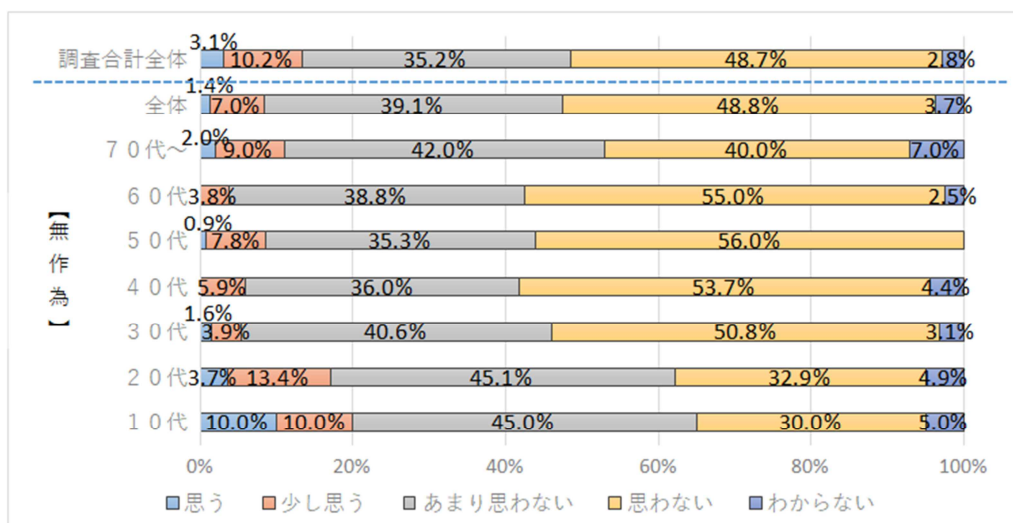
【無作為抽出】N=283



(4) 買物公園が賑わっていると思うか、また賑わいに必要なこと (問9, 問10)

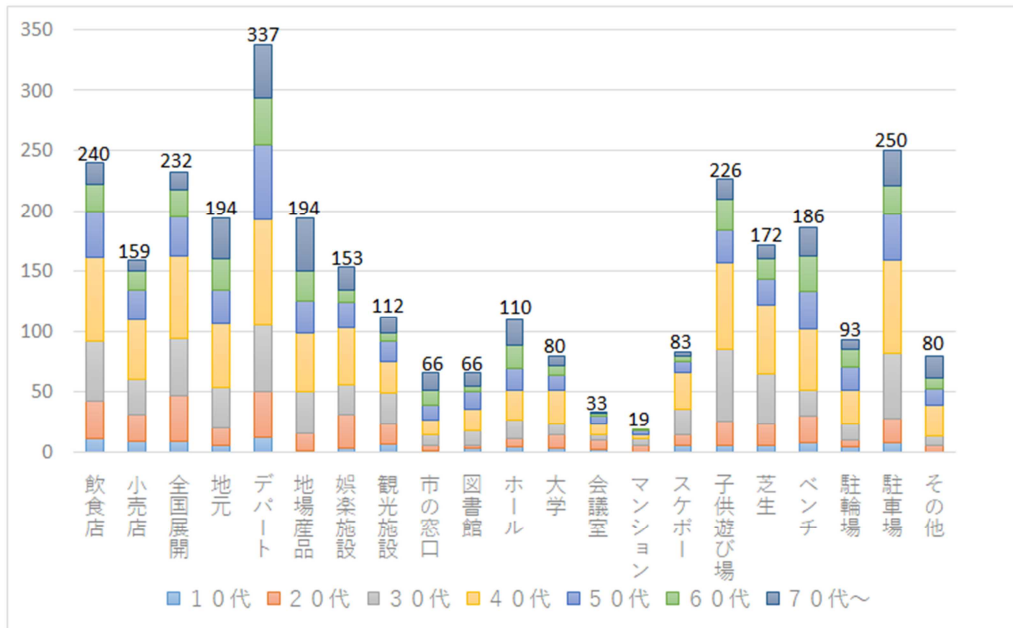
賑わっていると「思う」が1.4%、「少し思う」が7.0%、合わせると8.4%となり、「あまり思わない」が39.1%、「思わない」が48.8%で、合わせると87.9%となっている。年齢層別では、「思う」と「少し思う」を合わせると10代が20.0%と最も高く、「あまり思わない」と「思わない」を合わせると60代が93.8%と最も高くなっている。

【無作為抽出】N=729 (【調査合計】N=2,254)



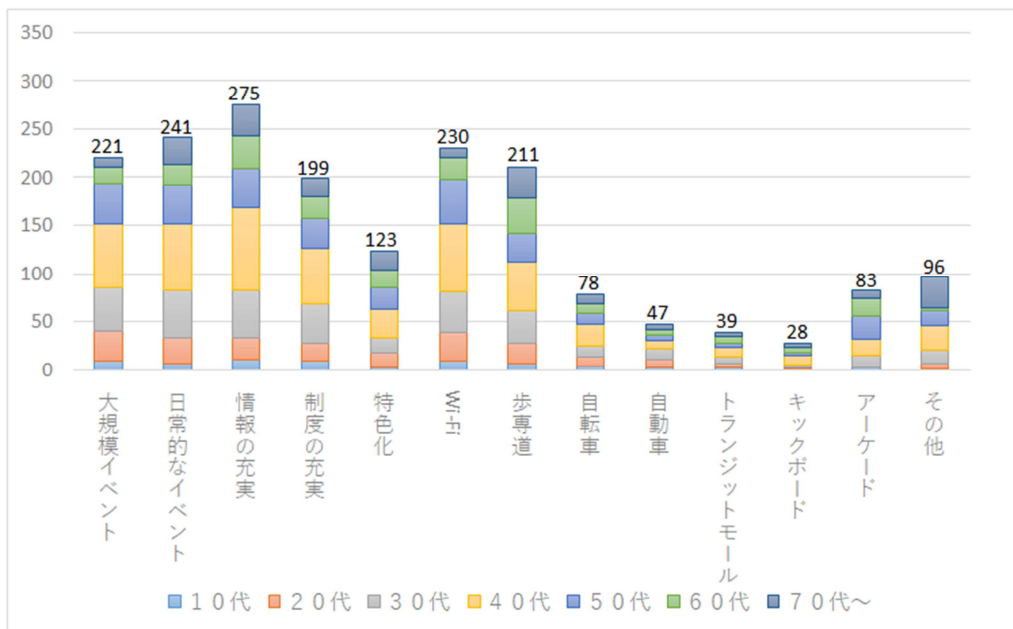
賑わいに必要だと思う場所・施設は、「デパート、スーパーマーケット」が337件と最も高くなっている。

【無作為抽出】N=736



賑わいに必要だと思う機能・使い方は、「店舗やイベントの情報の充実」が275件と最も高くなっている。

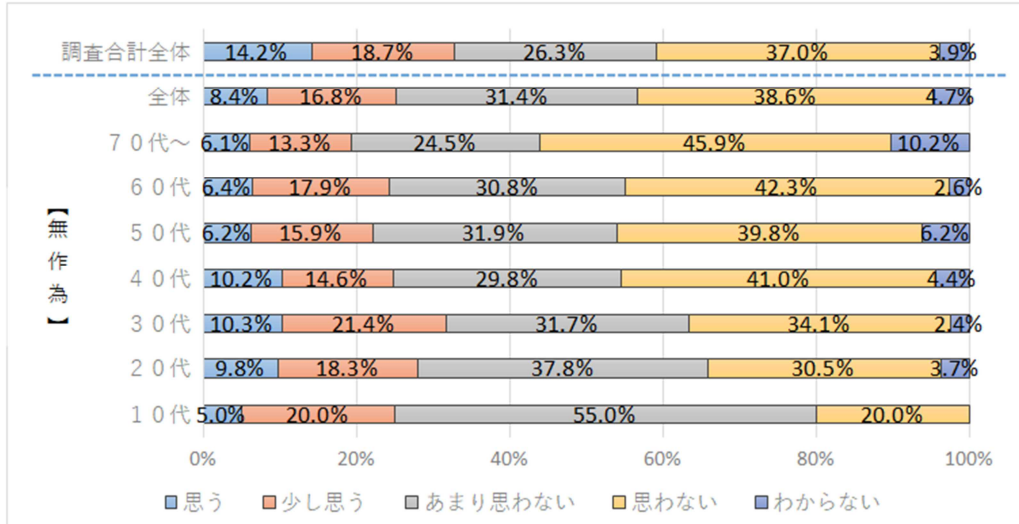
【無作為】N=736



(5) 買物公園でのモビリティや自転車の通行, またその長所・短所 (問 13, 問 14)

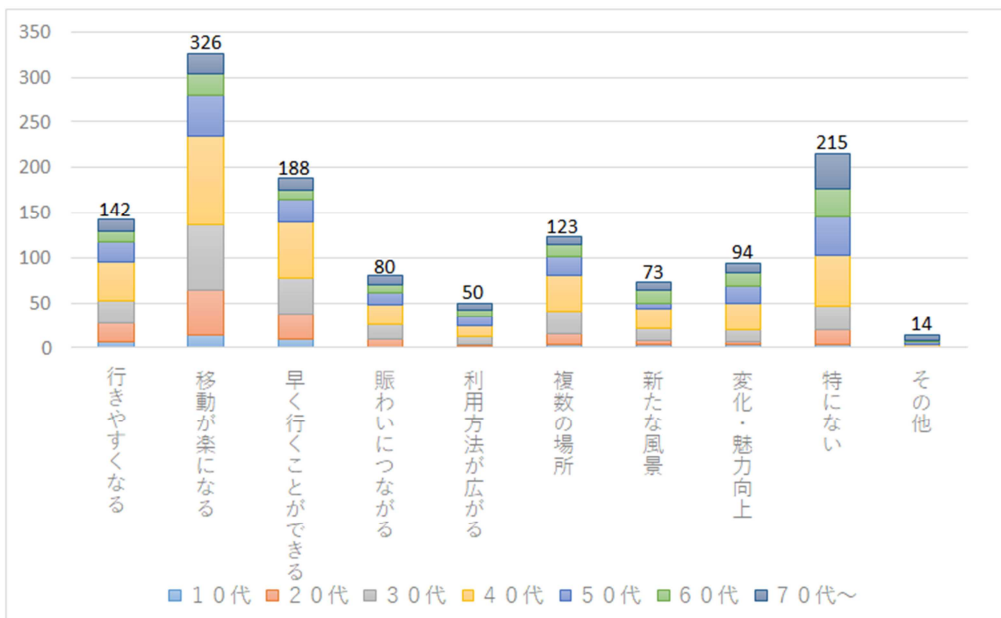
通行できたら良いと「思う」が 8.4%, 「少し思う」が 16.8%, 合わせると 25.2%で, 「あまり思わない」は 31.4%, 「思わない」が 38.6%で, 合わせると 70.0%となっている。年齢層別では, 「思う」と「少し思う」を合わせると 30代が 31.7%と最も高く, 「あまり思わない」と「思わない」を合わせると 10代が 75.0%と最も高くなっている。

【無作為抽出】 N=722 (【調査合計】 N=2, 233)



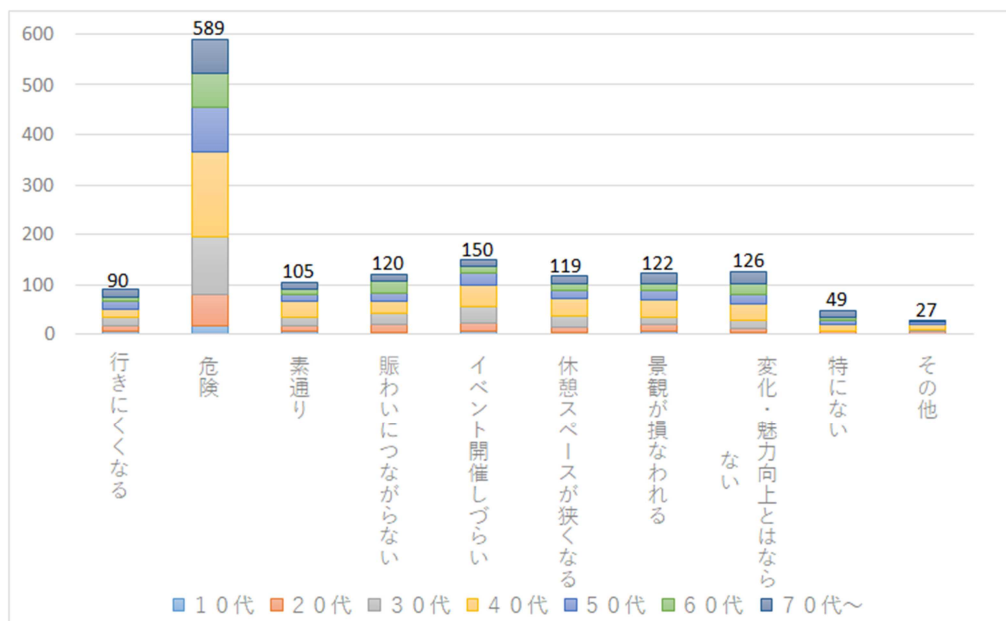
モビリティや自転車が買物公園内を通行できるとした場合のメリットは, 「買物公園での移動が楽になる」が 326 件と最も高くなっている。

【無作為抽出】 N=673



モビリティや自転車が買物公園内を通行できるとした場合のデメリットは、「歩行者とモビリティ等の接触の危険が高まり、歩行者が歩きにくくなる」が589件と最も高くなっている。

【無作為抽出】N=704

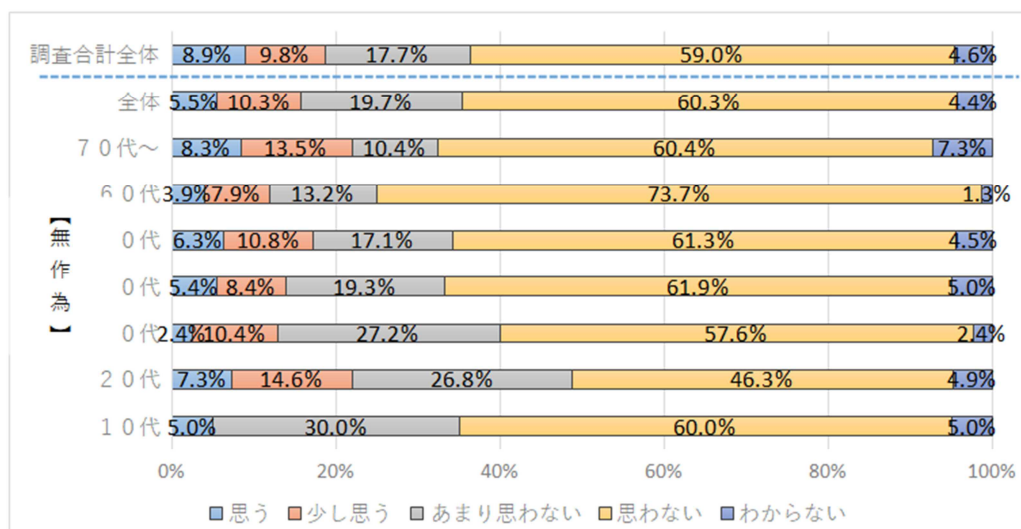


(6) 買物公園での自動車の通行 (問 15)

買物公園での場所や時間などを限らない全般的な自動車通行について、無作為抽出の全体では、「思う」が5.5%、「少し思う」が10.3%、合わせると15.8%となり、「あまり思わない」が19.7%、「思わない」が60.3%、合わせると80.0%となっている。

年齢層別でみると、「思う」と「少し思う」を合わせると20代が21.9%と最も高く、「あまり思わない」と「思わない」を合わせると10代が90.0%と最も高くなっている。

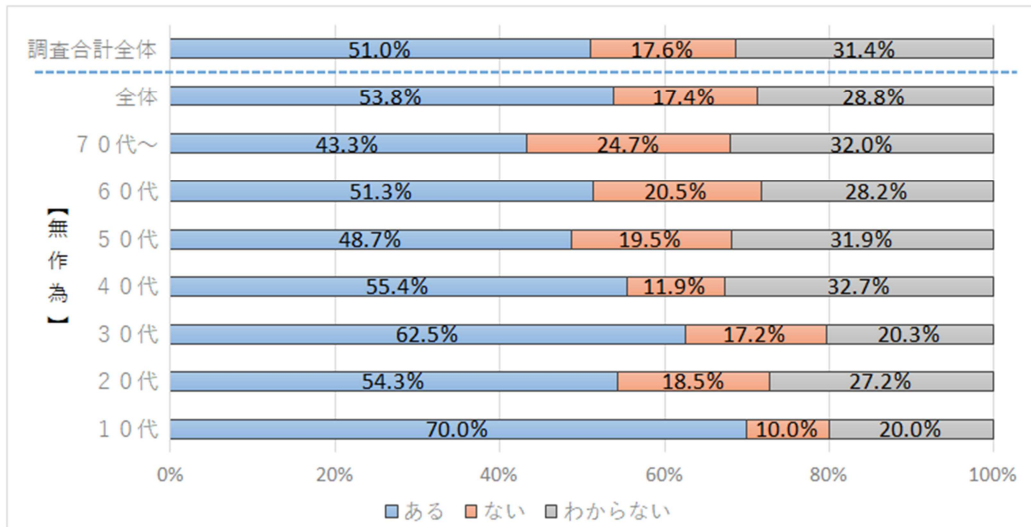
【無作為抽出】N=712 (【調査合計】N=2,235)



(7) まちなかで開催してほしいイベントの有無と分野 (問 16)

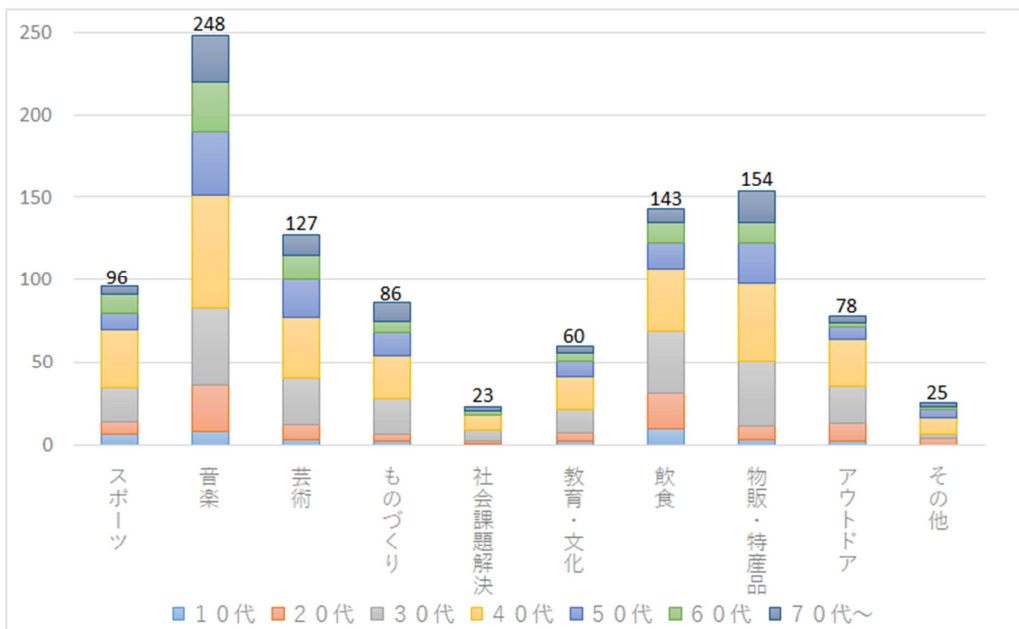
開催してほしいイベントが、「ある」が 53.8%、「ない」が 17.4%となっている。年齢層別で見ると、全ての年齢層において、「ある」との回答の割合が、「ない」「わからない」のそれぞれの割合より高くなっており、10代が 70.0%と最も高く、70代以上が 43.3%と最も低くなっている。

【無作為抽出】 N=719 (【調査合計】 N=2, 243)



まちなかで開催，参加，観覧を希望するイベントの分野は、「音楽」が 248 件と最も高くなっている。

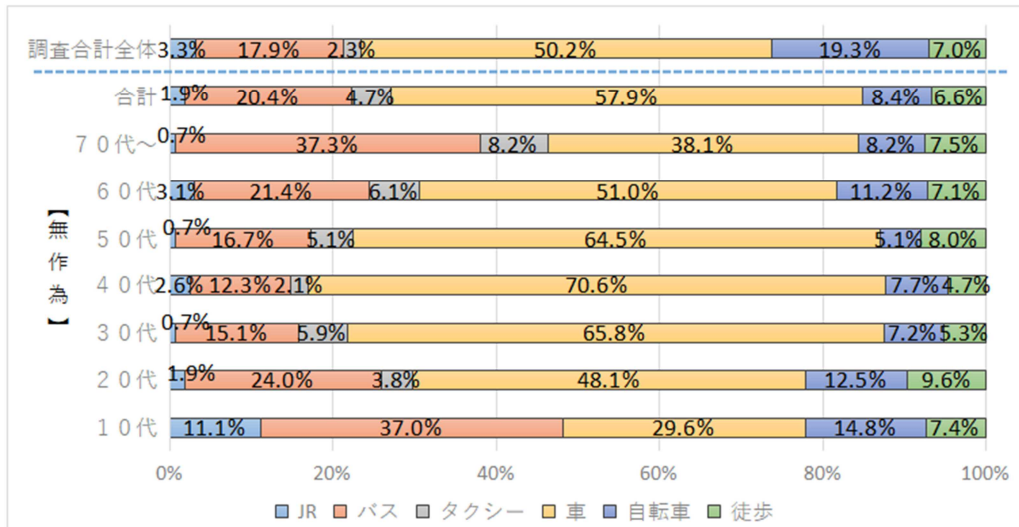
【無作為抽出】 N=388



(8) まちなかへの交通手段と公共交通機関の便利さ (問 20, 問 21)

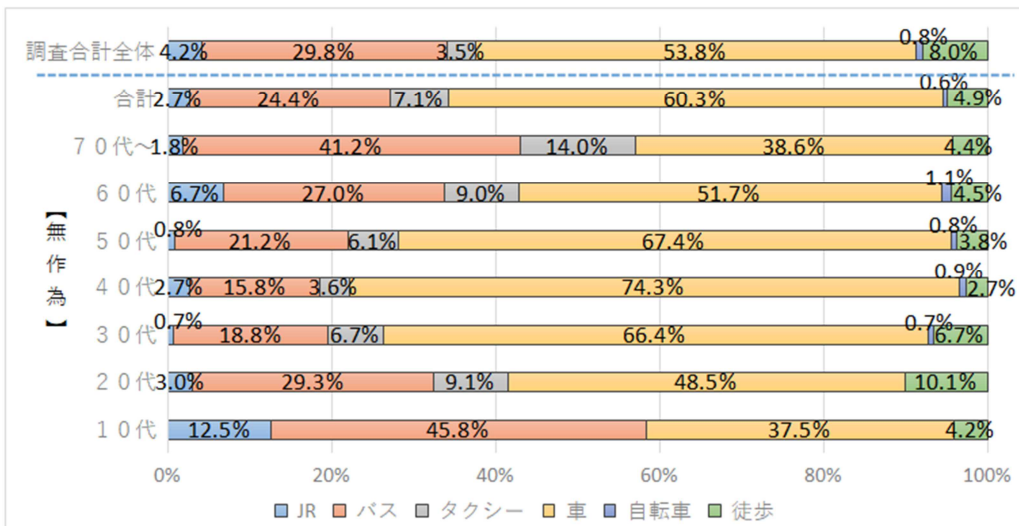
まちなかへ行く夏季の主な交通手段は、「車」が57.9%と最も高くなっている。年齢層別で見ると、10代を除く年齢層で「車」が最も高くなっているが、10代では「バス」が37.0%と最も高くなっている。

【無作為抽出】 N=726 (【調査合計】 N=2, 245)



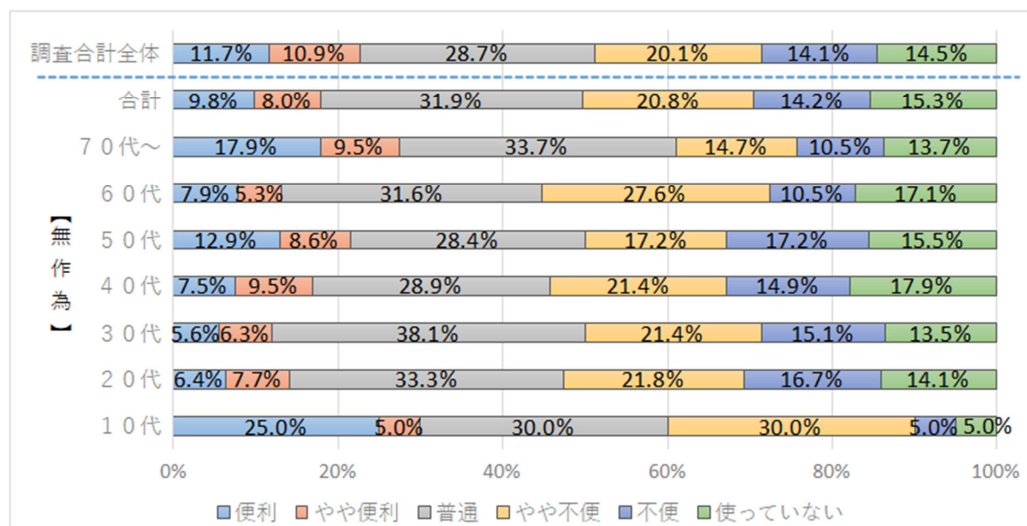
まちなかへ行く冬季の主な交通手段は、「車」が60.3%と最も高くなっている。年齢層別で見ると、10代と70代以上を除く年齢層で「車」が最も高くなっており、「バス」が10代で45.8%、70代以上で41.2%と最も高くなっている。また、全ての年齢層において、夏季と比較して「バス」と回答した割合が高くなっている。

【無作為抽出】 N=712 (【調査合計】 N=2, 225)



まちなかへ行くときの公共交通機関の便利さについては、「普通」が31.9%と最も高くなっている。また、「便利」が9.8%、「やや便利」が8.0%で、合わせると17.8%となっている一方で、「やや不便」が20.8%、「不便」が14.2%で、合わせると35.0%となっている。年齢層別でみると、「便利」と「やや便利」を合わせると10代が30.0%と最も高くなっており、一方、「やや不便」と「不便」を合わせると20代が38.5%と最も高くなっている。

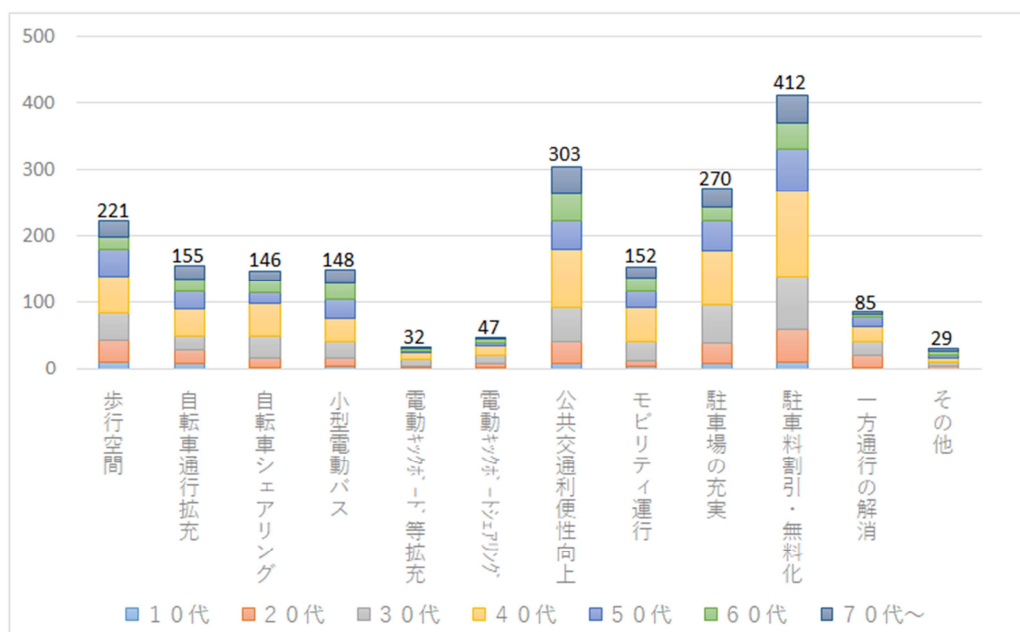
【無作為抽出】 N=712 (【調査合計】 N=2,230)



(9) まちなかの移動・回遊性の向上 (問23)

まちなかを移動・回遊しやすくするために必要だと思うことは、「駐車料金の割引・無料化」が412件と最も高くなっている。

【無作為抽出】 N=716

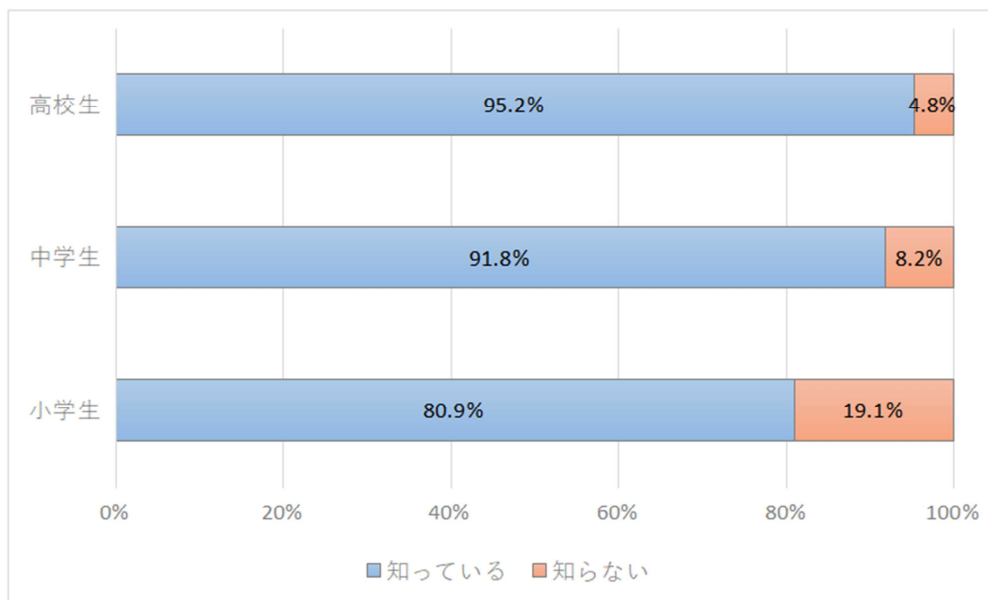


3 小中高用の主な設問に対する回答結果

(1) 買物公園の認知度 (Q1)

「知っている」は小学生が80.9%、中学生が91.8%、高校生が95.2%となっている。
学校が上になるにつれて「知っている」と回答した割合が高くなっているが、小学生では「知らない」が19.1%となっている。

N=1,021



(2) 買物公園への来街経験 (Q2)

「ある」は小学生が85.4%、中学生が91.3%、高校生が98.2%となっている。
学校が上になるにつれて「ある」と回答した割合が高くなっている。

N=932

